

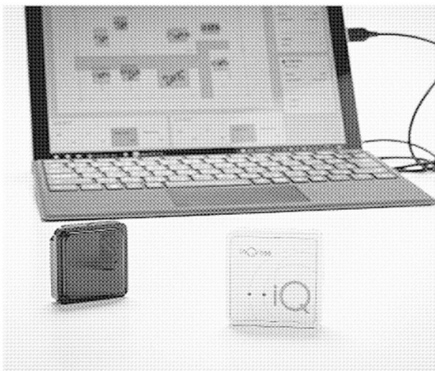
無線通信のイーアールアイ（盛岡市）は工場などでの作業員の動きの「見える化」に関する商品を拡充する。無線技術とデータ処理を組み合わせて作業員の無駄な動きを洗い出し生産性向上に役立つ。これまでよりも位置情報を把握できる範囲を広げ、2倍以上の広さに対応できる改良型を年内にも発売する。合わせて販売網も拡大する。

工場作業見える化商品

位置情報把握 2倍超に

イーアールアイ

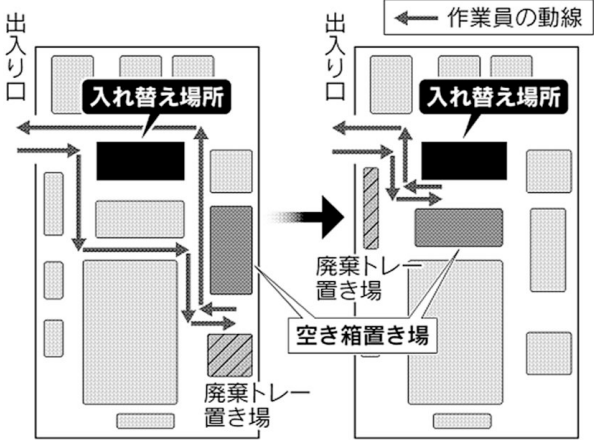
商品名は「InQross（インクロス）カイゼンメーカー」で2021年5月に発売、22年2月から量産した。50四方の広さに対応しており十数社に販売済みだ。「もっと広い範囲で使いたい」という要望が増えたため、100四方×50平方以上に対応できる「インク



ロケタグ（左）とヒトタグ（右）、アプリがセット

生産性向上、大手企業に的

導入によるカイゼン（レイアウト変更）のイメージ



ロス・ワイド」（仮称）を11月にも発表する。通信機能を持つ「ロケタグ」と呼ぶ4平方の固定局を工場内に複数配置する。作業員は「ヒトタグ」という4・7平方の移動局を身に着けて

で壁などに貼り付ければよく、大規模な工事は要らない。ヒトタグは1人1個をポケットに入れたクリップで作業服に留めたりする。パソコンにアプリをインストールすればセットが届いてすぐに利用できるという。商品の基本セットはロケタグ15個、ヒトタグ5個、USBスキャナー1個とアプリ（CD-ROM）で構成する。初期投資は100万円程度と比較的低価格で済む。

ワイド版はロケタグ、ヒトタグの個数を増やし、販売価格は200万円台半ばを中心に詰めている。販売目標は現行版の半分程度に据える。ワイド版を希望する既存ユーザーにはアプリのアップデートなどで対応する方針だ。

導入で例えば、複数の作業員の1日の歩数や歩行距離にムラがあるとわかった場合、作業の平滑化ができる。動線を分析し工場内のレイアウト変

更に結びついた例がある。加工機の稼働時間と作業員の動きを重ね合わせて解析するといった活用も可能だ。

ワイド版の利用企業は広い工場を持つ大手製造業が想定されるため、並行して販売体制を強化する。販売代理店の数を増やし、特に全国展開している企業に売り込みをかける。

03年創業の同社は20周年を迎えたのを機に4月からグループ組織を再編

した。持ち株会社のミッドホールディングス（盛岡市）を設立し、その下に同社と販売会社のムセコンネクト（東京・港）をぶら下げた。「事業承継の体制を整えた」（水野節郎社長）という。

生産工学が専門の大学教授と学術指導契約を結ぶなど研究面にも力を入れている。開発中の概念実証（PoC）やソフトウェア開発といったインクロス以外の事業も拡大していく。